

■ はじまり

2007年の活動から、いまの高校生が「企業で働くこと」に対して乏しいイメージしかもっていない、そして大学や学部、職業などの進路を選ぶうえで、その選択肢の少なさが高校生のキャリア観を育てるうえで、大きな課題になっていると考えました。多くの高校生をはじめ、次世代を担う学生に「企業で働くこと」をわかりやすく伝え、“自分らしい”進路を選ぶ一助となるよう活動していきたいと考えています。

現状	問題点	J-Winからの願い
<ul style="list-style-type: none"> ・TVドラマ「ショムニ」「派遣の品格」で訴求されたイメージ“企業で働く=OL=お茶くみ・雑用”の定着 ・社員の父親が家庭に会社の話を持ち込まない ・出産・育児で専業主婦になることが多かった母親世代のキャリア観を継承 	<p>“企業で働く”ことに関する リアルな情報が不足</p>	<p>確かな情報を提供し 多彩な選択肢から “自分らしい”進路選択を 行ってほしい</p>

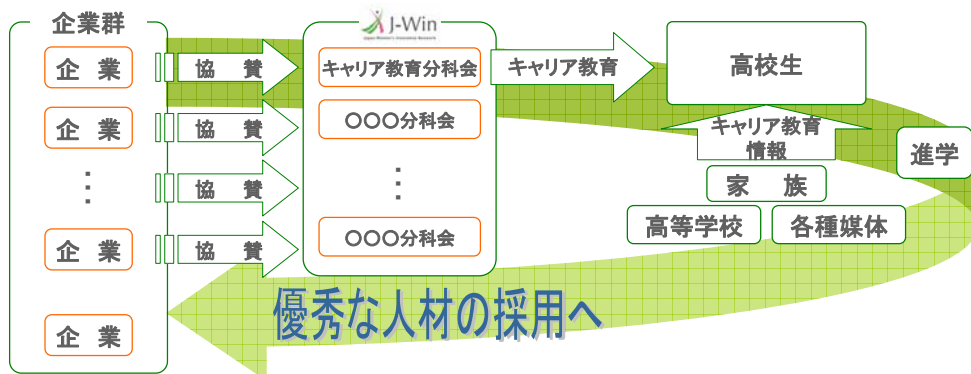
保育士、教師、薬剤師、栄養士など、資格系の仕事をめざす高校生が多い

●男子	(人)	(%)
1・学校の先生	211	6.7
2・公務員	150	4.7
3・医師	91	2.9
4・理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士など	67	2.1
5・薬剤師	65	2.1
6・警察官	60	1.9
7・研究者・大学教員	53	1.7
8・技術者・エンジニア・整備士	47	1.5
9・法律家(弁護士・裁判官・検察官)	39	1.2
9・消防士(レスキュー・救急救命士)	39	1.2

●女子	(人)	(%)
1・学校の先生	177	6.2
2・保育士・幼稚園の先生	173	6.1
3・看護師	157	5.5
4・薬剤師	90	3.2
5・理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士など	82	2.9
6・公務員	75	2.6
7・医師	61	2.1
8・栄養士	48	1.7
9・介護福祉士・ホームヘルパー	45	1.6
10・カウンセラー・臨床心理士	44	1.5

出典: benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査(2004.12)」

■ 活動目的



分科会活動の様子

■ 目標

ミッション

“働くって何？”を伝えよう ～働くことの原点回帰～

- 1) 働くことは当たり前！男女が同様に働く事の“意識付け”
- 2) 様々な仕事を紹介し、仕事をする自分をイメージしてもらう



アクション

- 1) 的確なアウトプットのためのインプット「学生の仕事への意識の現状把握」
(勉強会、学校関係者との座談会、アンケート、データ分析など)
- 2) 学生が「働く自分」をイメージ出来るよう、必要なアウトプットを行う
(学校への出張セミナー、授業サポート、コンテンツ or 冊子の作成)



ゴール

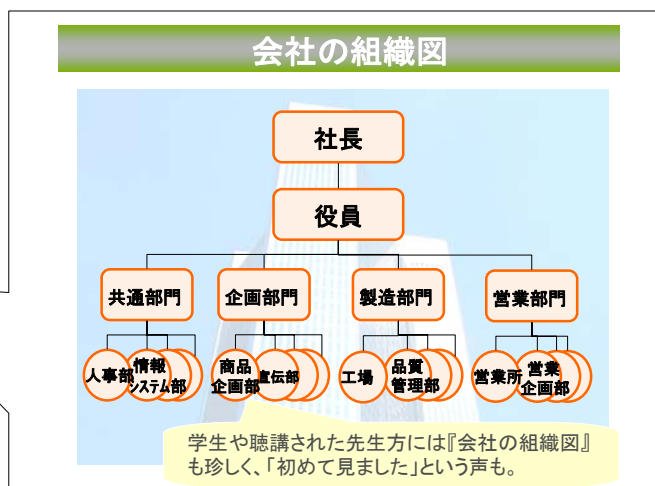
「高校生1,000人との対話」

■ キャリアセミナー実施状況

- 08年2月： 高校生のためのキャリア・セミナー開催
@東京ウィメンズプラザ<参加者:46名>
- 08年4月： 神奈川県私立A高校にてキャリア・セミナー開催
<参加者:約200名(3年生)>
- 08年7月： 神奈川県私立A高校にてキャリア・セミナー開催
<参加者:約200名(1年生)>
神奈川県私立B高校にてキャリア・セミナー開催
<参加者:約400名(1年生)>
- 08年9月： 神奈川県私立C高校(2年生)にてキャリア・セミナー開催予定
- 09年2月： 神奈川県私立C高校(1年生)にてキャリア・セミナー開催予定

■ キャリアセミナーの様子

▶ パネルディスカッション



1) J-winメンバーが仕事の内容、進路選択のポイント、仕事と家庭の両立、良かったこと、悩んだことなどをパネルディスカッションで説明

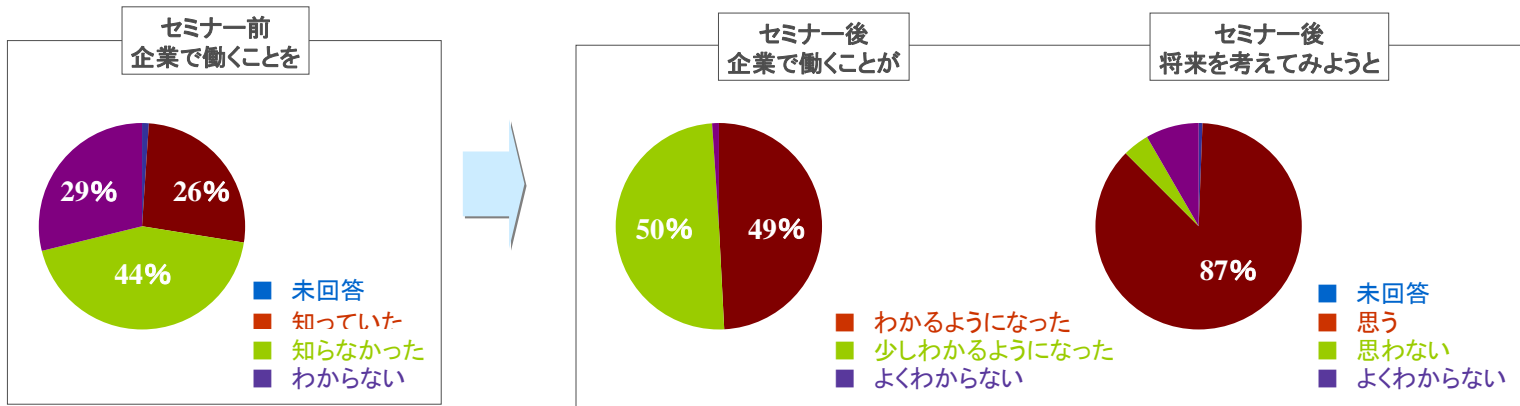
2) グループに分かれてJ-Winメンバーとディスカッション

- 企業で働くということのイメージを得る
- 自分の将来について考えてみる
- 進路選びの参考にする

▶ グループディスカッション



■キャリアセミナーアンケート結果(A高校)



- 1) 企業で働くことへの理解 26%→99%
- 2) 将来を考えてみようと思った 87%

■セミナーアンケート・感想まとめ

	現状	J-Winとしての理想形態
人生観・価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等、職業人としての基礎的資質・能力の低下 ・精神的・社会的自立の遅れ ・働くや生きることに対する関心や意欲は低下していない ・視野が狭い ・仕事・家庭の両立よりも二者択一する傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限のコミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等、職業人としての基礎的資質・能力を持つこと ・関心や意欲を彼女らが働く起動とする ・多様な生き方があることを知ってもらう
職業意識	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が働くには資格が必要という意識が強い ・「企業で働くこと」についてのイメージを持たない生徒が多い ・働くことへの関心、意欲、態度、目的意識、責任感等が未熟 ・高等学校教育において、「産業や職業の種類や内容を指導してほしい」という意見が3割以上ある、保護者からも先輩等の体験談を聞く機会を設けてほしいというコメントがある ・保護者は、生徒よりも「資格志向」が強く「就業継続」をより強く望んでいる ・企業に対する偏見(女性はコピーとりなど)や思い込みがある、女性が活躍できることを知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な職業、職種、専門性、働き方があることを知ってもらう ・働くことが大変だけではないことをわかってもらう ・企業で様々な働き方があるということを知ってもらう ・様々な進路選択の可能性を知るとともに、進学とその先の職業においても幅広い可能性があることを知ってもらう ・女性が社会で活躍できる場があることを知ってもらう
進学・進路意識	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を早い時期に(高1まで)決めている人は、職業を先に決めているか、好きなことがある傾向にある ・目的のないまま進学・就職する者が増加 ・将来に対する不安が大きい ・高等学校教育において、「進路選択の考え方や方法を教えてほしい」という意見が3割以上ある ・大学を決めるために将来の職業を決めなくてはならないと、焦りを感じている高校生が多い ・大学がゴールと思っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・視野を広げ、自分がやりたいこと好きなことを探してもらい、それを活かせる色々な生き方があるということを知ってもらう ・いいことばかりではないが、その都度がんばれば道が開けることを伝え、不要な不安を持たない ・様々な進路選択の可能性を知るとともに、進学とその先の職業においても幅広い可能性があることを知ってもらう ・働くことの意義/楽しさをわかってもらう